

絆

赤井むつみ後援会便り第18号

2013年4月 発行

笑顔あふれる温かい町に！



2013年度の予算決定！

3月の八雲町議会定例会では、予算特別委員会が設置され、今年度予算について審議し、本会議で下記の通り可決（決定）いたしました。

項目	2013年度	2012年度
一般会計予算額	118億9,000万円	112億8,100万円
特別会計（国民健康保険他）	57億7,573万円	58億8,633万円
企業会計（病院・水道）	76億3,988万円	72億 256万円
合計	253億 561万円	243億6,989万円

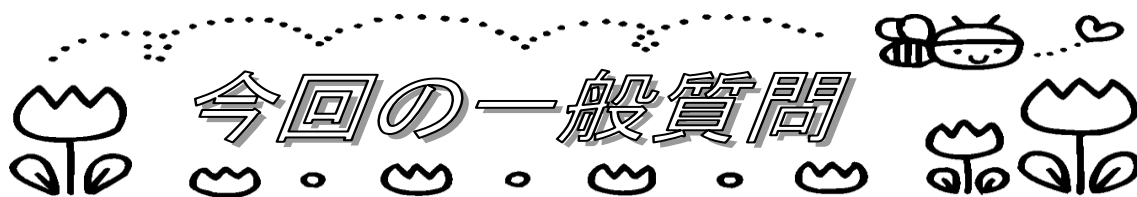
○前年度比 9億3,572万円 3,8%の増となりました。

○貯金（基金） 39億円 ⇒ 45億円 6億円増の予定

○借金（地方債）132億円 ⇒ 135億円 3億円増の予定

今年の予算の注目点

- ★ 地域おこし協力隊事業 1,379万円（3名）
- ★ 情報交流物産館整備事業 6,110万円
- ★ 観光情報受発信業務委託料 338万円
- ★ 情報交流物産館指定管理委託料 328万円
- ★ 交流人口の拡大による新しいまちづくりプロジェクト事業 1,000万円
- ★ 熊石福祉センター改築事業 4,925万円（実施設計・解体工事）
2014年度 建設工事費（おおよその見込み額）2億3千万円
- ★ 熊石パークゴルフ場整備事業 800万円（実施計画作成）
2014年度 建設工事費（おおよその見込み額）7千5百万円
- ★ 地域高校就学支援事業 419万円（八雲・熊石高校）
- ★ 八雲町民センター改修事業 770万円
- ★ 八雲木彫り熊展示室整備事業 833万円
- ★ 国保病院看護師宿舎整備事業 400万円（実施設計）
2014年度 建設工事費（おおよその見込み額）5千万円



今回の一般質問

町民皆さまの声を町政に取り入れる方法の一つとして、パブリックコメントがあります。これは、町が行なおうとしていること（例えば、総合病院本館棟の全面建て替え、情報交流物産館建設など）に、町民として賛成・反対だけではなく色々なアイデアを提言する事ができます。

提言するためには、募集期間内に住所・氏名・電話番号を明記して、メールやFAX、郵送、手渡しで役場に届けます。受け取った役場は、関係課で検討し、ホームページで公表すると共に、提言者に直接返事を送ることになっています。

ただ、いろいろな立場の方がいて、意見を提出しにくいという声も聞きます。また、「いただいた意見をこのように生かしました！」と、検討経過がはっきりわかる返答をしている町もありますが、八雲町では残念ながら、意見に対する説明のみになっていて、『協働の精神』が感じられません。そこで、本当の協働のまちづくりが出来るように！という思いを込めて質問しました。

より多くの町民の意見を反映させる工夫を！

問八雲町でもパブリックコメントを行っていますが、「町民の声を聞く」だけではなく「町民の声を町政に反映させる」ことが、協働のまちづくりとして求められています。ある町では、寄せられた意見を、どの課でいつ検討し、どのように町政に生かすかをはっきりと明示してあったり、無記名でも回答のできる事は対応しているところもあります。八雲町の場合、回答の言葉遣いは丁寧でも、内容は冷たい印象しか残らないし、本気で町民と協働のまちづくりをしようという気持ちが感じられません。今後、パブリックコメントに寄せられた意見を、ただ聞くだけではなく、もっと町政に反映させるシステムの構築が必要なのではないでしょうか？

丁寧な対応を心がける

答弁パブリックコメントは、協働のまちづくりを推進するための情報の共有と、まちづくりに町民が参加する一つの手法として取り入れています。無記名にすると、誹謗中傷が増え責任のない意見が多くなると共に、丁寧な回答が出来ません。検討結果と経過説明については新年度から取り入れていきます。心のこもった回答でないと言われれば、そういう反省もあります。パブリックコメントだけが町民の意見を聞く方法ではありませんが、町民説明会や出前説明会での意見交換も含め、丁寧な対応を心がけていくようにします。

加齢と共に、あちこち痛くなったり、不自由なことも増えていきますが、みんなでお互いに支え合いながら、寝たきりにならない生活を目指し、八雲町としても色々な取り組みを行なっています。

東京都新宿区ではNPOが「暮らしの保健室」と言って、学校の保健室のように、ちょっとしたことで気軽に相談に行ける場所が出来ました。（例えば、この薬は何の薬だったかしら？ 少し熱があるけど、このくらいなら大丈夫？など）長崎市では「まちなかラウンジ」といって、介護・医療・福祉の各担当が連携して、健康な生活を送られるようサポートしています。八雲町でも、官民が連携して、誰もが気軽に相談・対応し、みんなが安心して元気な老後を過ごせるような仕組みができればいいな…という思いを込めて、質問しました。

心も体も健幸なまちづくりを！

問総合病院本館棟の全面建て替えに当たり、八雲町は「心も体も健幸なまち」をまちづくりの中心におき、町民みんなが参加し、疾病予防、介護予防から健康回復を可能とし、心身ともに安心して暮らせるまちづくりを目指すべきではないでしょうか。その取り組みの成果が上がる事で、将来的に医療費の削減や信頼できる病院作りにも貢献できると思います。そのためには、介護、福祉、医療の連携を図り、それぞれの垣根を越えたサービスの展開、「暮らしの保健室」のように気軽に相談できるシステム作りが必要なのではないでしょうか？

健康増進計画の中に取り入れる

答弁八雲町でも様々な施策を推進し、心身ともに安心して暮らせるまちづくりを目指し、連携した事業も展開しています。暮らしの保健室のように、住民目線で訪問看護などのノウハウを持つ医療関係者と保健師、ボランティアなどが常駐しての保健室については、受け入れ施設などの体制が整っていない中で難しいものがありますが、今後は連携を図る要となる総合病院、また共生型サロンを備えている町内障害福祉サービス事業所、社会福祉協議会などの関係機関と協議検討をしていきたいと考えています。

また、平成25年度、26年度において八雲町健康増進計画の策定作業に入りますが、その際、町民の健康管理、増進について医療、介護、福祉の連携を推進するために、どのような方法があり、またどのようなことが必要なのか、各機関との連携の方法など先進地計画等を参考に検討し、計画の中に取り入れていきたいと考えています。

自分達の健康は自分達で守り維持するためにも、町で開催している色々な取り組みに、みんなでお互いに誘い合って参加しましょう！「笑顔は健康から！！」

大変申し訳ございませんでした！

1 ページ目の『今年の予算の注目点』にも載せてありますが、今年度・来年度の2カ年計画で、建設関係事業が目立っています。もちろん、財政が豊かであれば、施設整備も大切だと思います。しかし、貯金も増えていますが、それ以上の額で借金も増え、職員給与も独自削減を続け、職員の数も減らし、一部事業を凍結し節約している中で、こんな使い方は良いのだろうかと疑問です。

その上、返済は今すぐではなく、4年後の2017年度から始まるということで、万が一の時は誰が責任を持てるのだろうか、国も道も借金だらけなのに、その後の八雲町はどうなっていくのか？という、不安の声をたくさんお聞きしていました。にもかかわらず、その不安を解決するような答弁を導き出す質問が、ほとんど出来ないままに、今年度の予算が決まってしまいました。本当に申し訳ございませんでした。

もちろん、私一人の力で変えていけるものではありませんが、せめて皆さまの不安や疑問に対する答えを、しっかりと引き出そうと思っていたにもかかわらず、出来なかったのは、何よりも私が未熟で勉強不足によるものです。深く深く反省しております。

今後、更に勉強と調査を重ね、今回決まった予算が、町民の皆さまの幸せに結びついていくよう、しっかりとチェックしていきたいと考えています。



八雲町議会基本条例が出来ます！

議会改革調査特別委員会で、「議会基本条例」の策定に向け取り組んでいます。「議会って何しているの?」「選挙のときしか、議員の存在を感じない」など、議員の活動や議会の取り組みが町民の皆様に上手く伝わっていない事を十分反省し、議会本来の役割『町民の声を町政に!』をしっかりと取り組み、町民と共に歩む協働の議会を目指すためにも、議会基本条例を策定することになります。

5月には、この条例の説明会やパブリックコメントも行ないますので、是非、ご意見をお寄せください。『議員の意識が変われば議会が変わる、議会が変われば行政が変わる、行政が変われば町が変わる、町が変われば町民が幸せになる』ことを目指しています！

赤井むつみ後援会連絡先 八雲町住初町126

FAX=62-3632 電話=080-5588-2090 (赤井)

赤井自宅 栄町56-12 63-2090